

受験番号

氏名

適性検査 I

2023 年度

中学入試体験会

# 適性検査 I

(45 分)

## 受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 問題用紙・解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
3. 解答はすべて解答用紙に記入してください。  
記入の方法を誤ると得点になりません。
4. 終わりの合図とともに、問題用紙・解答用紙を提出してください。

芝国際中学校

一

【文章1と文章2】を読み、あとの問題に答えなさい。（\*印の付いている言葉には、本文のあとに「注」があります。）

文章1

国連のSDGs（持続可能な開発目標）の一つは「海の豊かさを守ろう」。海洋研究開発機構（JAMSTEC）が、千葉・房総半島沖の深さ6千メートルの海底を調べたところ、プラスチックのごみが大量に見つかりました。海面に浮かぶプラスチックの細かなごみ「マイクロプラスチック」の害が近年、注目されています。しかし、それは氷山の一角で、海底にはもっとたくさんのごみがひそんでいるようです。



【使い捨て】 8割熱も光もなく分解進まず

歯みがきのチューブ、荷造り用のビニールバンド、ポリエステル製の服にからまった漁網。レジ袋はそのままの形のものも、切れ切れのものもあります。アルミ風船にはクモヒトデがすみついていました。ごみをすみかにするので、生態系のくずれも心配されます。JAMSTECの研究員、中嶋亮太さんは「たくさんあると思っていたので予想通り」と話します。一方で、何回も深海を航行してきた操縦士からは「こんなに多いのは初めて」と驚

きの声が上がったといっています。調査のため深海に向かう「しんかい6500」。定員は3人です。調査は2019年8、9月、房総半島から約500キロメートル沖の3カ所で行いました。潜水調査船「しんかい6500」に乗って水深6千メートル近くの海底へ。海底から1〜2メートル上を、歩くよりもゆっくり移動しながら、ごみを探します。プラスチックごみを見つけると止まって、バキュームのような器具で吸い込むか、ロボットアームのような器具でつまみ上げます。とったごみは一つずつ容器に収めます。他の調査も含めて、1カ所に3時間ほどかけました。深さ約6千メートルの海底に沈むレジ袋をつかまえます。集まったごみは、1平方キロメートルあたり平均4561個。100メートル四方にすると約46個になりました。そのうち8割以上は、レジ袋や食品の包装などの使い捨てプラスチックです。40年近く前の（昭和）59年製造と、はっきり読み取れる包装もありました。食品の包装から製造年がはっきり見えるものもあります。プラスチックは熱と紫外線で化学的に分解されます。今回のような水温2度、紫外線はほぼゼロという環境では分解がなかなか進まず、長く残ることがわかります。国連環境計画（UNEP）によると、これまでに海に流れ込んだプラスチックごみは少なくとも8600万トンに上ります。しかし、海面で観測された量は44万トンに過ぎません。「まさに氷山の一角。大部分は海の深いところにたまっていく」と中嶋さん。深海にたまる一方のごみが環境にどのような影響を与えるかは、まだ研究の最中です。「深海魚を食べる機会が増え、私たちの体に化学物質がたまる恐れがある。ごみが生物の新しいすみかになり、生態系がくずれる心配もあります」

アジアから大量流出現実知って行動を

アジアの国々からは、大量のプラスチックごみが出ています。毎年、海に流れ出すプラスチックごみの約半分は、東アジアと東南アジアの国々から出ているといわれています。日本は絶対量が多いため、管理しても行き届かない分が出てしまいます。中国やインドネシア、フィリピンなどは、管理自体が行き届いていません。JAMSTECの中嶋亮太さんは「ポイ捨てが多いというよりも、ごみ箱から集めて、処理する過程のどこかで『もれ出す』感じでしょう」と話します。もれ出して海に入ったごみは黒潮に乗り、四国沖から千葉県の房総半島沖に流れていきます。今回の調査場所は、黒潮のそばのゆるい渦を巻く地点です。1カ所でぐるぐる回り始めたごみには藻などが貼りつき、海底に沈んでいきます。条件の似た場所として、次は四国沖の渦近辺の調査を考えています。ごみが多く出る中国に近く、渦が常にあることから、さらに大量のたまり場になっているのでは、とみています。

(朝日中高生新聞 2021年4月25日号)

## 文章2

アントニオ・グテレス国連事務総長による寄稿

かつて皇帝ネロは、ローマが燃えている最中にバイオリンを奏でていたとして糾弾されたことはよく知られている。今日、一部の指導者はそれより悪しきことを行っている。文字どおり、火に油を注いでいるのだ。ロシアによるウクライナ侵攻の余波が全世界に波及する中で、高まるエネルギー危機への一部の国の対応は、化石燃料で賭けに出て、気候緊急事態の深刻化を招く石炭、石油、

ガスに何十億ドルをさらに注ぎ込んでいる。

一方、あらゆる気候指標が記録を更新し続け、未来において、地球の広大な範囲で猛烈な嵐、洪水、干ばつ、山火事、居住不可能なほどの気温が襲う予兆を告げている。私たちの世界は気候の大混乱に直面している。化石燃料の探査と生産インフラのための新規資金調達は妄想じみている。化石燃料は答えではなく、今後もしも答えになることはない。私たちが地球や社会に与えているダメージは見えてきている。それは毎日のニュースの中にあり、誰も逃れることはできない。

化石燃料は、気候危機の原因だ。再生可能エネルギーが、気候崩壊を抑え、エネルギー安全保障を促進させるための答えだ。もつと以前から再生可能エネルギーに大規模な投資を行っていたら、不安定な化石燃料市場に再び翻弄されることはなかっただろう。再生可能エネルギーは、21世紀の和平計画だ。しかし、迅速で公平なエネルギーの移行を目指す闘いは、公平な土俵で行われていない。投資家たちはいまだに化石燃料を後押しし、各国政府はいまだに数十億ドルの補助金を、石炭、石油、ガスに分配しており、これは毎分約1100万米ドルに相当する。

長期のウエルビーイングより短期の救済を求めることを表す言葉がある。「中毒・依存症」だ。私たちは、化石燃料にいまだに依存している。私たちの社会と地球の健康のために、今すぐに止める必要がある。エネルギー安全保障、安定した電力料金、繁栄、居住可能な地球へと至るただ一つの真の道筋は、汚染を引き起こす化石燃料を捨て、再生可能エネルギーを基盤としたエネルギー移行を加速することだ。

そのため私は、G20加盟国の政府に対して、経済協力開発機構（OECD）諸国は2030年までに、その他すべての国々は2040年までに、石炭インフラを全面的に廃止するよう呼びかけた。金融機関には、化石燃料への融資を中止し、再生可能エネルギーに投資するよう要請した。さらに、再生可能エネルギーを世界中で促進するための5つのポイントからなる計画を提案した。

第1に、再生可能エネルギー技術をグローバルな公共財としなければならぬ。これには、技術移転における知的財産権の障壁を取り除くことが含まれる。第2に、再生可能エネルギー技術の部品や原材料のサプライチェーンへのグローバルなアクセスを改善しなければならぬ。2020年、世界では、5ギガワットのバッテリー・ストレージが設置された。2030年までには、600ギガワットの貯蔵容量が必要になる。実現のためには、世界的な協力体制が必要なことは明らかだ。輸送上の障壁、サプライチェーンの制約、さらにはリチウムや他の電池用金属のコスト上昇が、そうした技術と材料を最も必要としている時に、その有効利用を妨げている。

第3に、太陽光プロジェクトと風力プロジェクトを遅らせている煩雑な手続きをなくさなければならない。私たちは、迅速な承認手続きと、電力供給網を近代化するさらなる努力を必要としている。風力発電所の承認を得るためには、欧州連合（EU）で8年を、米国では10年を要する。韓国の陸上風力発電プロジェクトでは、8つの異なる省庁から22件の許可が求められる。

第4に、世界はエネルギーへの補助金を化石燃料からシフトして、脆弱な立場に置かれた人々をエネルギー・ショックから保護

し、持続可能な未来への公正な移行へと投資しなければならない。そして第5に、再生可能エネルギーへの投資を3倍にする必要がある。これには、多国間開発銀行、開発金融機関、商業銀行が含まれる。すべての機関が、さらに力を入れて再生可能エネルギーへの投資を大幅に強化しなければならない。

世界中のすべての指導者たちが、さらに緊急性をもって対応する必要がある。私たちはすでに、1.5℃という限界に危険なほどに接近している。それは気候変動による最悪の被害を避けるために科学が警告する限界値だ。1.5℃に抑えるには、2030年までに排出量を45%削減し、今世紀半ばまでに排出量正味ゼロを達成しなければならない。しかし、各国の現在の削減コミットメントを足し合わせても、この10年間に14%近く増加することになる。これは、壊滅を意味する。

気候行動、エネルギー安全保障、そしてクリーンな電気を利用できていない数億の人々に供給することの答えは、再生可能エネルギーにある。再生可能エネルギーは、3重の意味で成功をもたらす。

再生可能エネルギーによる革命を拒絶する言い訳などできない。石油やガスの価格が記録的水準に達している中で、再生可能エネルギーの価格は常に下がり続けている。太陽エネルギーと蓄電池のコストは、過去10年間で85%急落している。風力発電のコストは、55%低下した。そして、再生可能エネルギーへの投資は、化石燃料の3倍の雇用を生み出す。

もちろん、再生可能エネルギーが気候危機に対する唯一の答えではない。森林破壊や土地劣化の逆転といった、自然に基礎を置

いたソリユーションが不可欠だ。エネルギー効率を促進する取り組みも、同様に不可欠だ。しかし、再生可能エネルギーへの迅速な移行を、私たちの野心としなければならぬ。

私たちが化石燃料を止めることでもたらされる利益は、気候以外に関しても膨大だ。エネルギー価格が低下するとともにより予測可能となり、食料安全保障と経済安全保障にプラスの波及効果をもたらす。エネルギー価格が上がれば、食料や私たちが依存するあらゆる商品のコストも上がる。だからこそ、未来が燃えているのにバイオリンを奏でるようなことは止め、迅速な再生可能エネルギー革命が必要だと私たち皆が合意しようではないか。

(2022年7月26日アントニオ・グテーレス寄稿)

〔注〕 ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること

ストレージ：保管・貯蔵・倉庫などの意

サプライチェーン：製品の原材料・部品の調達から、製造

在庫管理、配送、販売、消費までの全

体の一連の流れのこと

コミットメント：その行動しかとれないようにするような

実効性のある仕組みをつくること

ソリユーション：問題の解決方法

問題一 —— 線⑦「大量のプラスチックごみ」とありますが、現

在も海底には大量のプラスチックごみがほぼそのままの形

でたまっていると考えられます。なぜそのままの形で堆積してしまっているかの理由が書かれた一続きの二文を探し、はじめと終わりの五字をぬき出しなさい。(、や、などもそれぞれ字数に数えます。)

問題二 —— 線①「未来が燃えているのにバイオリンを奏でるようなこと」とありますが、——線部はどういうことを表していますか。四十字以内で説明しなさい。(、や、などもそれぞれ字数に数えます。)

問題三 文章1と文章2で述べられている環境問題に対する問題点の共通点をまとめた上で、それについてのあなたの考えを四百字以上四百四十文字以内で書きなさい。ただし次の条件とあとの「きまり」に従いなさい。

条件 二段落構成にし、第一段落には、文章1と文章2に共通した環境問題の問題点をまとめ、第二段落にはあなたの考えを一つにしぼり、理由をふくめて書くこと。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書きます。

○ 各段落の最初の文字は一字下げて書きます。

○ 改行は、段落をかえるときだけとします。会話文を入れる場合も改行してはいけません。

○、や、や「」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じます目に

書きます。(ます目の下に書いてもかまいません。)

○段落をかえたときの残りのます目は、字数として数えます。

○最後の段落の残りのます目は、字数として数えません。



